

「患者同士支え合おう」

がん患者に初の出張講座

がん患者とその家族を対象にした初めての出張講座と相談会が13日、石垣市健康福祉センターであり、受講生10人が、がんについて学習、交流を深めた。NPOマインドケアおきなわ主催。

講座は「支え合う力」を演題に、琉大医学部がんセンターホスピス医・栗山登至さんが講話。栗山さんは、ホスピス医師とは、終末期の担当医ではなく、痛みの緩和治療が専門と自己紹介。体の痛みだけでなく心の痛みも解消も重要だと説明。

さらに「がんの告知を受けると、多くの患者は落ち込み、一部はうつ病まで発症させてしまう。自分や周囲に怒りをぶつける患者もいる」と告知を受け止める難しさを語った。その上で、患者同士で支え合う「ピアサポート」の活動を紹介。

がん患者の話を「傾聴し、共感して寄り添う姿勢が病の不安を和らげると強調した。栗山さんは「日本人の2人に1人はがんにかかる時代。厚労省もピアサポートに力を入れ始めている。患者同士の支え合う力で、(がんを巡る)さまざまな問題を考え、解決策を考えていこう」と呼び掛けた。

患者支援ゆんたく会会 患者らを対象に、市長は「私は胃から肺癌福祉センターで出張がん、脳腫瘍、うつま講座と相談会を開催すでかかって克服してき。問い合わせは09た。経験を多くの人に8(927)2953伝えたい。患者同士で8(927)2953事務局まで。

語り合うのは、大きなゆんたく会の入会申し込みは電話83・252マインドケアおきなわは今後月1回、がん5回事務局まで。



「患者同士で支え合っている」と呼び掛ける栗山医師＝石垣市健康福祉センター

講座後、相談会もあり、栗山さんを囲んでがん患者らが意見交換し、目ごろの思いを語り合った。

参加した新垣憲男さん(75)は八重山が